



発表! こんなことをやりました! (小学生編)

世界の友だちフェスティバル

テーマ:「みんなちがう、みんなおなじ地球の仲間たち」

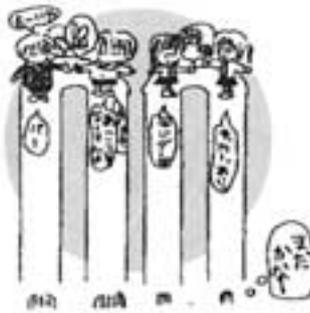
大阪市立中津小学校 全校360名 平成6年12月実施
中津小フェスティバル実行委員会の子どもたちが協会(関西事務所)にきて学習した後、発展途上国の子どもたちのくらしが実感できるゲームをつくりました。

児童集会の1時間を使って体育館で、1~6年の縦割り班をつかって下記のゲームをまわるようにしました。



1 おあいこジャンケンゲーム

世界に目をやれば、今日もどこかで勝った負けたと、争いごとが絶えません。ジャンケンといえば、ふつうどちらかが勝つまで続けますが、このゲームではあいこになるまでジャンケンをします。勝ち負けとは違った視点をもったゲームです。



2 イクバルちゃんゲーム

イクバルちゃんとは、ある発展途上国に住む子ども。毎日の仕事は、片道3時間もかけてきれいな水をくみにいくことです。子どもたちは、チームで水の入ったバケツをもって、リレー競争をします。けれども、1滴たりともこぼさないようにバケツを運ばなくてはなりません。



*イクバルちゃんという名前をつけたのは、子どもたちに親しみをもってもらうためなので特定の人や国等を表現しているものではありません。

3 にたものをさがせ

世界には言語も生活習慣も私たちと違うさまざまな人びとがあり、クラスの中になだて2人と同じ人はいません。違うところは多いけれども、同じ人間。どこかに共通点があるはずです。

担当の児童が出した指示(誕生日、好きな動物等)によって、1年から6年までの児童が、共通するものどうして集まるゲームです。(「開発のための教育」(ユニセフ発行)の中の活動より)



1 紙のボールでサッカー

発展途上国の子どもたちもボール遊びが大好き。ボールがないときは自分たちでくふうして木の皮や布切れでボールをつくって遊んでいます。



このコーナーでは子どもたちは、木の皮のかわりに不要の紙をまるめてボールをつくり、それでサッカーをします。

5 ORSをつくろう



発展途上国では、下痢のために命を落とす子どもがたくさんいます。ORSは、脱水症状を防ぐための薬。原価10円。家でも簡単に作れるこの薬を、実際につくって飲んでみます。

つくり方: 1lの水に砂糖小さじ8杯、塩小さじ1杯を溶かせばできあがり

*みなさんならどんなことをやりますか? この秋の文化祭でどんな取り組みをしたか、アイデアを共有できたらいいと思います。ぜひ郵便またはFAXで送って下さい。

新作VTR・スライド紹介

新作VTR ミーナ「にわとりなんわく(14分)内容:教育の不平等」 ミーナ「はんぶんこしょう(14分)内容:栄養・労働に関する不平等

世界の中でもとくに南アジアは、伝統的な社会習慣により、いろいろな面で女性と女兒が不利な立場におかれている。このビデオは同地域での女兒にたいする特別支援プログラムの中で人々の啓蒙に使われているもので、女兒の置かれている現状への認識と意識改革を求めている。現代的なアニメーションで、小さな子どもにもわかりやすく、少女ミーナの生活とエピソードが語られる。背景説明や適切なフォローが必要だが小学校低学年でも使うことができる。

スライド「ルワンダその後」

昨年の大虐殺から1年を経過し、忘れ去られようとしているルワンダだが、いまだに難民の帰還も進んでいない。最新情報をスライドで報告し、継続的な支援を訴える。